

## 島根県松江・安来圏域の救急隊員に対する 脳卒中病院前対応の動画研修と今後の課題

ふく だ ひろ き みつ た かず き  
福 田 弘 毅<sup>1)</sup> 満 田 一 樹<sup>2)</sup>  
やま りく たか ゆき  
山 陸 孝 之<sup>2)</sup>

キーワード：病院前脳卒中スケール，機械的血栓回収療法，救急救命士，Web 動画研修

### 要 旨

脳卒中急性期治療として rt-PA による血栓溶解療法に加えて主幹動脈閉塞に対する機械的血栓回収療法の有用性が高まっているが，速やかな治療介入のためには救急隊員による発症時刻や既往歴などの聴取だけでなく，脳卒中を疑う症状，主幹動脈閉塞を疑う症状の観察など病院前脳卒中スケールを用いた評価も重要となっている。コロナ禍で集合研修が困難となったため，救急隊員に対する脳卒中病院前対応の研修として指導救命士の指導のもとにオンデマンドでの Web 動画研修を実施した。動画研修は集合研修の代替手段として有用であったが救急救命士と非救急救命士では理解度に差が見られた。非救急救命士は普段の活動で脳卒中疑い傷病者に対応する機会が少なく，そのため傷病者を脳卒中と疑うことや神経症状観察などに難しさを感じていることが明らかとなった。救急救命士と非救急救命士で活動機会や理解度に差があることを考慮した研修内容の検討が必要である。

### 背景と目的

近年，rt-PA（アルテプラゼ）による血栓溶解療法に加えて，脳主幹動脈の急性閉塞（Large Vessel Occlusion：LVO）に対する機械的血栓回収療法が非常に有効であることが明らかとなっている<sup>1)</sup>。「脳卒中治療ガイドライン2021」では

rt-PA による経静脈的線溶療法とともにステントリトリーバーまたは血栓吸引カテーテルを用いた機械的血栓回収療法についても高い推奨がされており，適応のある症例についてはいずれもできるだけ早く治療を開始することが望ましいとされている<sup>2)</sup>。

日本脳卒中学会と日本循環器学会では2021年に「脳卒中と循環器病克服第二次5カ年計画」を発表し，脳卒中と循環器病による年齢調整死亡率を2020年に比較して5%減少させ，健康寿命をさらに延伸させることを目標として掲げた。戦略の柱

Hiroki FUKUDA, et al.

1) 松江赤十字病院脳神経内科

2) 松江消防本部

連絡先：〒690-8506 島根県松江市母衣町200

松江赤十字病院脳神経内科